



さが 市報

No.564
昭和58年

1 月号

(毎月1日発行)

発行所 佐賀市役所(電話代表23151)

〒840 佐賀市栄町1番1号

編集人 総務部長

			前月比
12月1日 現 在	人 口	168,315人	+ 1
	男	80,432人	- 5
	女	87,883人	+ 6
	世 帯	54,117人	+ 17



長崎街道まつりから

(昭57.11.3)

勇気をもって大胆に 佐賀市に力を

新しい年の幕あきであります。市民の皆さん、あけましておめでとうございます。この年が、皆さん方ご一家のうえに、幸せ多い一年でありますように、心をこめてお祈り申し上げます。



佐賀市長
宮島 剛

佐賀市政も問題を沢山抱えて苦しい道を歩んでいます。片や嵐と言ってもいいほどの厳しい、厳しい社会経済の空もようです。私も、とにかくにも「佐賀市に力をも」と思っています。にがんばってまいりました、勇気をもって大胆に。しかし道は遠く悩みは果てません。

それでも私は、「大きい希望」をもって、さらに元気を出して、この年のえとである猪のように、素朴の精神を失わず、たくましく難局に突き進む決意であります。身近

年頭のごあいさつ

新しい都市像の実現 市民と一体で

市民の皆さん、あけましておめでとうございます。

昭和五十八年の新春を一家だんらんうちに迎えられ、今年こそは、大いなる希望と抱負をいだいておられること、ここからよろこびを申し上げます。



佐賀市議会議長
武田 資義

昨年の内外情勢は、波乱に満ち、内には行政改革の推進・経済不況・政局の変動など、外には、世界金融不安・ソ連首脳交代・中東地域の紛争など、あまたしく多難なうちに幕がおろされました。

現に全力を傾け、議会人としての職責をはたしたいと思っておりますので、この上とものご支援・ご協力のほどをどうぞよろしくお願いいたします。

なこの一年を振り返ってみても、例えば多年の佐賀市の懸案であった水抜きについては、南の八田江、東の佐賀江の大ポンプ場建設が始まりました。南北東西の主軸道路の整備についても具体的に話は進み、一部工事にかかりました。特に市民の皆さん方と一緒に進んでおります。夏の夜を色どり、市内の子どもの心もゆさぶったあの大十六年ぶりの花火大会、市外の人が言われるように年々よみがえってくる市内のよき水のたたずまい、それを支える全市民の泥まれの運動、市民の皆さんの手がかりの「歴史をいまに」の行動―歴史資料展、長崎街道まつりなど、すばらしいガイドブック、地図づくりなど……私どもが持っている「佐賀の力」が、おもてに出て来たのではないのでしょうか。

皆さん方も、希望をもって、この年もがんばりたいと思います。

覚悟をあらたにいたしているところであります。

昨年十二月、二十一世紀を展望して、「安全で快適な市民生活を確保し、活力あるまちづくり」を目指して、新しいマスタープランが策定され、都市像が樹立されました。この新しい都市像を実現するため、苦難な環境の下にあろうとも市民と一体となつて、大佐賀市建設を目指し、推進していかなくてはなりません。

また本年は、私たちが市政に参画する者の任期満了の年にあたり、皆さん方の要請されていることをきめ細かに推進・実現に全力を傾け、議会人としての職責をはたしたいと思っておりますので、この上とものご支援・ご協力のほどをどうぞよろしくお願いいたします。

昭和五十八年の年頭にあたりまして、「この一年」市民の皆さんのご多幸とご健勝をお祈り申し上げ、新年のごあいさついたします。

れる水と緑の文化都市

二十万都市をめざして

目標年次 昭和65年 新総合計画 決まる

▽二十一世紀を展望しつつ、都市像「活気あふれる水と緑の文化都市」を掲げ、昭和六十六年を目標年次に、二十万都市の実現をめざした基本構想・基本計画を、昨年十二月に策定しました。以下その概要についてご紹介します。

本市は、昭和四十二年三月佐賀市総合計画を策定し、三本の都市像に基づく市政運営を行ってきました。しかし、この計画策定以来十五年を経過した今日、経済成長もかつての高度成長期から低成長へ、市民の生活意識や価値観はものから心へと、また、高齢化社会の到来など本市をとりまく社会経済情勢は大きく変わり、新たな視点に立った市政運営が望まれています。



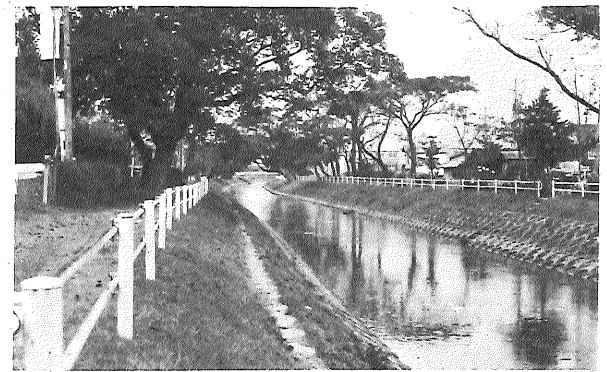
佐賀市の上空から

佐賀新聞社提供（ふるさと巡回から）

都市づくりの基本構想

基本構想は二十一世紀を展望しつつ、昭和六十五年を目標年次とし、計画人口を二十万人としています。

また、この構想は、市民生活の向上をめざす市政運営の指針となり、市の各種計画の根幹となるもので、市民の自主活動の指針ともなるものです。



（清流をとりもどす多布施川）

都市像実現のための背景と課題

ここに示す背景と課題は、都市像実現のために展開される諸施策の底流をなす基本認識です。都市像実現のためには、佐賀のよさを再認識しながら、そのエネルギーを活用し、課題をいかに克服していくかが重要です。

1、都市の形成

昭和四十六年、本市全域を都市計画区域とし、均衡ある都市形成に努めてきました。しかし、本市の現状は、北西部、西部の発展に比べ、東部、南部が停滞しています。これは道路整備や排水対策の遅れなどに起因しています。

2、地理的条件

梅雨期などの大雨のたびに浸水被害に悩まされています。

これは、海抜約四メートルの低平地であり、河川がすぐれた感潮河川で排水能力が低いことなどに起因しています。また、都市化による河川の汚濁も問題です。

3、都市の活力

本市の人口は、伸びが鈍化しており、若年層が少なく、高齢者が増加しています。産業基盤の充実を図り、人口集積と若者の定着等による活気の創出が必要です。

4、歴史と風土

本市には、長い歴史と文化の蓄積があり、温暖で豊かな風土があります。しかし、これらに対する認識が薄れつつあります。

5、市民と連帯意識

本市の市民性は、人情豊かで、また、地域の連帯感もあります。しかし、近年これも失われようとしており、今後新しいまちづくりを進めるにあたっては、さらに①まちづくりへの参加意識の盛り上がり②全市民的のまつり、行事の振興などが課題です。

6、大型プロジェクトへの対応

九州横断自動車道、佐賀空港など多くの大型プロジェクトが予定されています。これらの事業の積極的促進を図り、その波及効果を産業活動等に活用する必要があります。

7、県都としての都市機能

本市は、県都として、政治経済等各分野にわたって中心的な役割を果たしてきました。今後さらに、県域の中核都市として、県民の要請にも応える施設の整備、魅力と風格ある県都づくりが課題となっています。

調和ある発展を— 施策の大綱

これは、活気あふれる水と緑の文化都市を実現するための五つの基本目標について、それぞれに施策の大綱を示したものです。

(1) すぐれた風土をいかすまちづくり

……都市基盤の整備
……活力にみちたまちづくり
……産業の振興
……美しく住みよいまちづくり
……生活環境の整備
……健康と幸せのまちづくり
……市民福祉の増進
……心ゆたかなまちづくり
……教育文化の向上。

10の重点施策

本市発展の原動力として、是非とも整備、創出しなければならないものとして、基本計画の総論で、10項目の重点施策を掲げています。

1、調和のとれた市街地の形成

市街地再開発事業を推進するとともに、市街化区域の拡大、用途地域の見直しなど人口と産業を適正に誘導します。特に、開発の遅れている東部・南部地区は幹線道路の整備、排水対策や土地区画整理事業を推進し、市街化を進めます。

2、機能的な道路網の整備

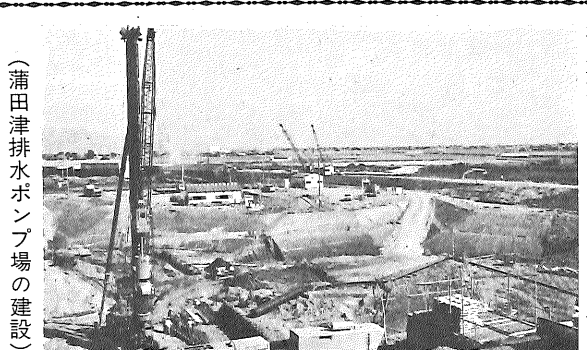
県内各都市間の交通の迅速化、円滑化を促進します。また、市内交通体系を確立し、環状東線の建設、市中心部と南部、東部を結ぶ道路を整備します。

3、緑あふれるまちづくり

都市に美しい景観と落ち着きを与えるため、失われつつある古木、巨木の保護とともに、公共施設、民間事業所の緑化、市民の生け垣づくり運動を積極的に推進します。

4、水害の解消と清流の復活

巨勢川、佐賀川、八田江川、新川などの河道整備や排水ポンプの設置など、抜本的対策を促進し、本計画期間内に浸水被害の解消を図ります。また、河川浄化運動を進め、市民と行政が一体となって、清流をとりもどし、ホテルが飛び交い、魚影の走る水辺の再現を図ります。



（蒲田津排水ポンプ場の建設）

のこぎり型家並み。敵が攻めてきたとき隠れて、不意打ちできるためだといわれている。古い町並みがいつまでも残るよう祈りたい(八戸一丁目付近)。



佐賀城下への西の入口にあたる高橋。

ふるさと佐賀 長崎街道を歩く

佐賀城下を通る長崎街道。古い町並み、どこか懐かしいたたずまいをかもし出し、いまでも昔日の面影が随所にみられます。新春にふるさと佐賀の長崎街道を歩いてみませんか。



◆善左衛門橋(護国神社北)もとは土橋だったが、橋がいたみ通行人が不自由していたので、江戸時代の中ごろ宇野善左衛門が、自費で石橋に架け替える願い、明和元年(1764)に竣工した。現在の橋は明治の中ごろさらに修理されたものといわれる。(長崎街道歩こう会から)



城下町で最も古い生薬屋だといわれている 八戸宿を往來する旅人の道中薬を商う店として、親しまれていたことである。「牛黄清心丸」の看板がその昔をしのばせる(八戸一丁目)。

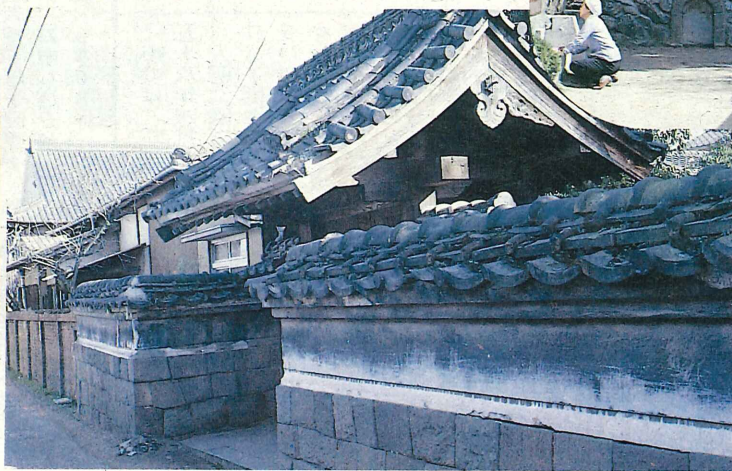


伊勢神社の肥前狛犬像一對

寛文七年(一六六七)につくられた市重要文化財の肥前狛犬。

▶反射炉跡とカノン砲。佐賀藩では、嘉永2年(1849)日本で最初の洋式反射炉が築かれ、鋼鉄の大砲が造られた。

▶脇街道に見られる武家門。変貌しつつある町と古い門が美しく調和している。伊勢神社裏道の通称駄賃小路にある。



佐賀城下町商家の繁栄を物語るエピソードの随所にみられ、往来する人々の心を和ませてくれる。



佐賀城下東の入口にかかる構口橋。橋を渡ると牛島町、ここは古くは慶長町と呼ばれていた。

コース説明 ①構口 ②思案橋 ③晒橋 ④道標 ⑤願正寺 ⑥高寺 ⑦龍造寺八幡宮 ⑧善左衛門橋 ⑨伊勢神社 ⑩武家屋敷跡 ⑪真覚寺 ⑫天徳寺 ⑬北面天満宮 ⑭築地反射炉跡 ⑮泰教寺(谷口家墓) ⑯名刀肥前忠吉跡 ⑰道標 ⑱のこぎり型家並み ⑲龍雲寺 ⑳八戸地蔵 ㉑地蔵院 ㉒長安寺 ㉓高橋(距離約6km、正保年間は約三四〇年前です)

